

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
分担研究報告書

てんかんの地域診療連携体制推進のためのてんかん診療拠点病院運用ガイドラインに関する研究

拠点病院調査・拠点病院で行われる、てんかん有病率・発症率等の疫学調査

研究分担者：飯田幸治 広島大学大学院医系科学研究科脳神経外科学

研究要旨

広島県におけるてんかん地域診療連携体制整備事業の取り組みとして、二次医療圏域からサブワーキンググループ(WG)を作り調査を行ってきた。その結果、患者の診療フローを変えられることが判明した。本調査結果をまとめ、解析を加えて、本研究班に報告書として提出した。

A. 研究目的

てんかん患者が適切な診療が受けられるよう「てんかん診療ネットワーク」を構築すること

B. 研究方法

別事業(厚労省てんかん地域診療連携体制整備事業)における県内二次医療圏域のサブワーキンググループ (WG)計 9 中核病院とともに行った新規患者の動向に関する調査結果を当該研究成果に反映できるよう当院倫理委員会で調整し承認を受けた。

(倫理面への配慮)

当院 IRB 申請承認の上、患者情報は匿名化している。

C. 研究結果

当院倫理委員会での承認後、本調査結果をまとめ、解析を加えて本研究班に報告書として提出した。(別紙参照)。

D. 考察

3 次診療への紹介目的の割合の変化や 2 次への紹介元の属性からはてんかん診療ネットワーク

の構築が進んでいるものと考えられるが、大学病院への 1 次からの紹介元の割合はまだ高いため、適切な診療レベルの役割分担が行えるようさらなる活動が必要と考えられた。また別事業での本結果を当該研究班での活動に役立てるよう提言を行っていく必要があると考えられた。

E. 結論

県内の初診てんかん患者の受診の流れが分析可能となり、また患者の診療フローをより適切に変えられることが判明した。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記入

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし